



Title	近世後期漢詩壇の研究
Author(s)	鷺原, 知良
Citation	大阪大学, 1998, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/41333
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	わし 驚 原 知 良
博士の専攻分野の名称	博 士 (文 学)
学 位 記 番 号	第 1 4 1 2 6 号
学 位 授 与 年 月 日	平 成 10 年 9 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 文学研究科 国文学専攻
学 位 論 文 名	近世後期漢詩壇の研究
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 後藤 昭雄 (副査) 教 授 福島 吉彦 助教授 渡邊志津子

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は安永から慶応に及ぶ近世後期に制作された漢詩について、(1)中国詩の受容、(2)先行邦人詩の受容、(3)漢詩選集の刊行という三つの視点から考察したものである。第一部「近世後期における中国詩受容の諸相」は 3 章、第二部「近世後期における先行邦人詩受容—大沼枕山の作品と詩論を中心に」は 4 章、第三部「文化文政期以降の漢詩選集に関する諸問題」は 5 章から成る。全体で 400 字詰原稿用紙で、およそ 400 枚の分量である。

第一部は第一章「館柳湾の晩唐詩受容」、第二章「大沼枕山の剣南体—幕末期陸游詩受容への一視点」、第三章「大沼枕山と村上仏山—白詩受容を通じて見る長詩への指向—」から成り、枕山を中心に、柳湾、仏山の作品を対象として、宋の陸游、中唐の白居易及び晩唐の皮日休、陸龜蒙の詩の享受の具体相を考察し、いくつかの新しい視点を提出している。

第二部は幕末詩壇の代表的詩人大沼枕山の作品を素材として、彼が先行の近世漢詩人からどのように影響を受けているかを考察する。時代を遡及するかたちで、第一章では直接指導を受けた梁川星巖、菊池五山を、第二章では枕山と一世代を隔てた六如、菅茶山、頼杏坪を、第三章ではさらに遡る正徳期の梁田蛻巖、秋山玉山らを取り上げて、これらの諸家の作品と枕山の詩を比較考察することを通して、その受容の実体を明らかにしている。

近世には多量の詩文集が刊行されている。それには、一個人の詩集すなわち別集と、複数の詩人の作品を選録した選集があるが、従来の研究では選集の存在はほとんど顧られることがなかった。第三部はその選集について考察する。『大阪繁昌詩』『今人小詩』『今人詩英』『同人集』『近世名家詩鈔』『近世詩林』『嚶鳴集』等を取り上げ、それぞれの作品の基礎的考察を行い、それを踏まえて、各集の文学史的位置付けを行っている。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文については、まず視点の独自性を評価できよう。従来の近世漢詩文研究では、一個人を取り上げて、その事

蹟を詳細に調査し、作品を読解していく方法が多くとられてきた。申請者はこうした方法では捉えきれないもの、抜け落ちてしまうものがあるという批判的視点から、前述の三方向からの考察を行っている。そのうち、ことに第二、第三部については従来の研究を補訂し、空白を填める成果を挙げている。

第二部については、従来の文学史では、近世漢詩史は格調派から清新派に大きく転換したと説明されてきた。本論文はこうした理解のみで十分であろうかという疑問から、幕末期の枕山を例として、彼が先行詩人から受けた影響を検討し、枕山は正徳期の梁田蛻巖や秋山玉山らの影響をも受けていることを明らかにした。このように近世漢詩史の縦の線をたどることによって、従来の理解のみではなお不十分であり、その枠組みを再検討する必要があることを指摘している。

第三部では、複数の詩人の作品をまとめた選集を取り上げているが、個人の伝記的研究中心の従来の研究では、その詩人の別集は考察の対象とされるが、選集はこれまで全くといってよいほど研究対象とはされなかった。しかし実際には、日本各地で膨大な数の選集が出版されているのであって、詩壇研究には不可欠の資料である。これに着目した視点は評価してよい。また個々の指摘を通して、近世漢詩研究のうえで、選集の考察が重要であることを明らかにしている。

以上の二つに比べると、第一部の中国詩受容の考察はすでに広く行われている方法を援用したものである。ただし、作品の精読を通して、柳湾の晩唐詩受容がいわれるごとき艶情詩ではなく、温雅で清澄な面を受容していること、枕山の陸游詩受容には清の趙翼の詩論の影響があることなどの新しい指摘を行っている。

上記のような成果を挙げているが、なお不十分な点も含んでいる。たとえば、第三部に関して、選集の全体的な出版状況についての説明がほしい。そうすることで、本論文が対象とした作品の位置づけも明確になるだろう。さらに本格的な作品論も希望したいところである。

平成10年7月28日に本論文の公開審査を行い、学力確認をした。

本審査委員会は本論文が博士（文学）の学位に値するものと認定する。